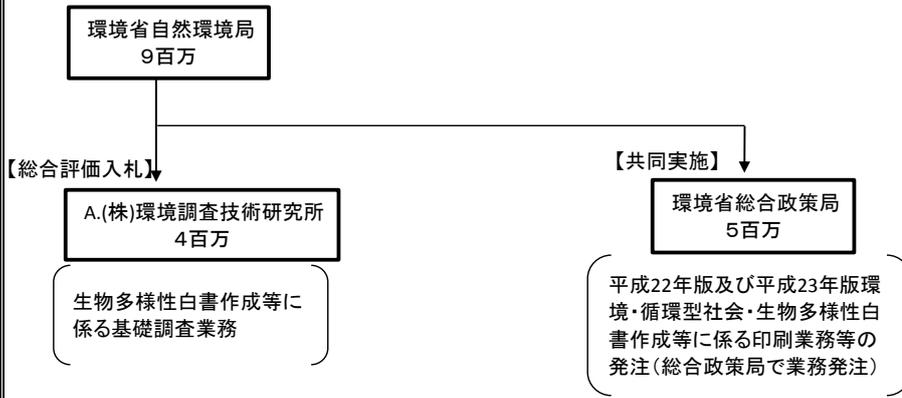


平成23年行政事業レビューシート (環境省)

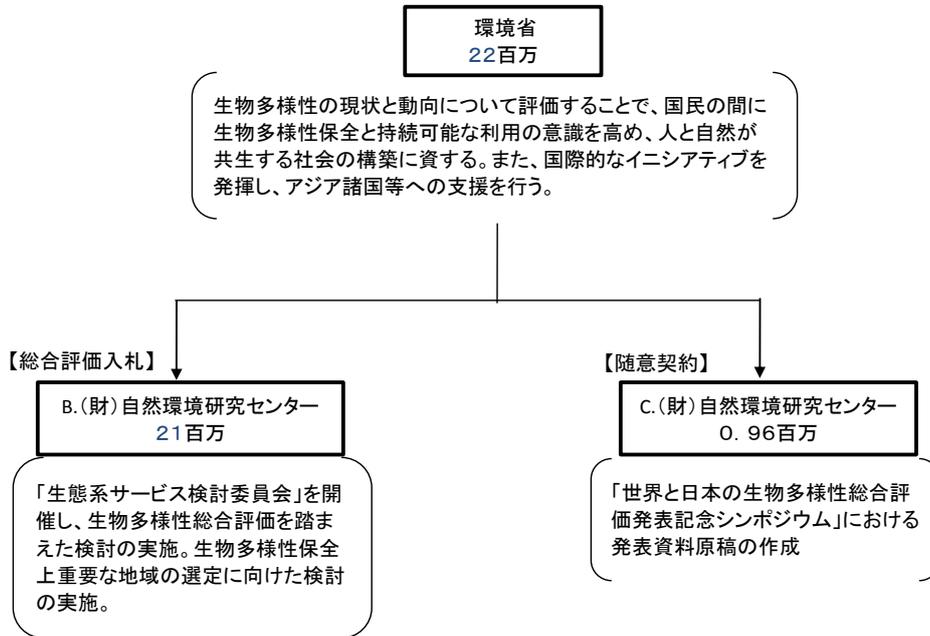
事業名	生物多様性基本施策関係経費		担当部局庁	自然環境局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成20年度		担当課室	生物多様性地球戦略企画室		室長 奥田 直久	
会計区分	一般会計		施策名	5-1 基盤的施策の実施及び国際的取組			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	①生物多様性基本法第10条及び第11条 ②生物多様性基本法第22条第2項		関係する計画、通知等	生物多様性国家戦略2010			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	①生物多様性基本法第10条に基づき、毎年、生物多様性の状況及び政府が生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関して講じた施策に関する報告(生物多様性白書)を作成し、生物多様性の現状について国民に周知する。 ②我が国の生物多様性の総合評価等を行い、生物多様性の状況を客観的に把握し、その結果を国民に広く認識してもらうと共に、環境行政その他における政策決定の判断材料を提供する。また、世界に先駆けて実施することで、国際的なイニシアティブを発揮する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	①生物多様性の状況の調査分析や、生物多様性国家戦略の実施状況の点検を行い、生物多様性基本法に基づく生物多様性白書を作成する。 ②わが国における生物多様性の総合的な評価を、国民生活や企業活動との関係、社会経済的な効果も含めて実施することにより、国民に生物多様性の状況やその保全と持続可能な利用の必要性を国民に分かりやすく伝える。また、わが国の生物多様性保全上重要な地域を特定することにより、優先的に保全すべき地域での取組強化や保護地域の指定推進を図る。さらに、COP10などで国際的な発信を行うとともに、アジア諸国、さらには世界各国の生物多様性の総合評価の実施に貢献する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		当初予算	24	49	47	47	36
		補正予算	0	0	0	0	
		繰越し等	0	0	0	0	
	計	24	49	47	47	36	
	執行額	21	46	31			
執行率(%)	90	93	66				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	本事業は、生物多様性白書の作成による国民への周知、生物多様性総合評価等の実施による生物多様性の状況把握及び同結果に対する認識の周知など生物多様性に関する基本施策であり、定量的な成果目標を示すことができない。			成果実績	-	-	-
			達成度	%	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	生物多様性白書については、毎年作成し国会に提出することが法律により定められている。生物多様性総合評価等については、活動実績から定量化できる事業ではないため、定量的な活動指標を示すことができない。			活動実績(当初見込み)	-	-	-
単位当たりコスト	-(円/-)		算出根拠	-			
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	生物多様性年次報告策定事務費			事業の効率的な実施による経費の節減			
	自然環境保全調査費	11	9				
	生物多様性国家戦略推進費						
	自然環境保全調査費	36	27				
計	47	36					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性白書の作成は、生物多様性基本法に基づき、政府が国会に提出する義務がある。 ・生物多様性総合評価は、わが国全体の生物多様性の損失の状況を、科学的、客観的な情報等をもとに総合的に分析し、環境行政その他の政策決定の判断材料を提供するものであり、国が実施すべきである。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・支出先の選定にあたっては、総合評価方式による入札を実施しており、競争性は確保されている。 ・資金の流れについて、支出先からの不必要な再委託等はなく、合理的なものとなっている。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性白書については、環境省が作成する他の法定白書(環境白書、循環型社会白書)と共にまとめて作成しており、効率化を図っている。 ・生物多様性白書については、平成22年6月1日に閣議決定され、第174回国会に提出された。 ・生物多様性総合評価については、昨年5月に公表され、昨年10月に愛知県名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議においても、その成果について各国から高い評価を受けた。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>①生物多様性白書の作成については、引き続き環境白書及び循環型社会白書との連携・協力により、効果的・効率的な作成に努め、更なる国民への周知を図っていく。</p> <p>②1950年代後半から2010年までの生物多様性の損失状況に関する評価等については、昨年5月に評価結果を公表し、わが国最初の生物多様性総合評価としては一定の成果を上げた。一方で、検討に必要な科学的データは必ずしも十分ではなく、具体的な行動オプションを示せていないなどの課題がある。今後は、科学的データや科学的知見の質・量を向上させるとともに、社会経済的な評価も含めた生物多様性に関する適切な評価手法の検討を進め、生物多様性総合評価を効率的・効果的に実施できる基盤を構築していく必要がある。また、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の成果である愛知目標を踏まえた生物多様性国家戦略の改定にあたり、今回の生物多様性総合評価等の結果を具体的な施策に反映させていくなど積極的な活用を図る。さらに、愛知目標の達成に向けた取組を着実に実施していくため、目標の達成状況や優先的に施策を講じていくべき地域を、地図等を用いて具体的に明らかにしていくなど、情報発信のさらなる強化を図っていく。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	支出状況を勘案し予算規模を見直すべき。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	支出状況の勘案及び生物多様性に係る将来シナリオ分析の実施について効率的に実施することにより経費を節減し概算要求額を減額。		
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
-			

①生物多様性基本政策推進業務費



②生物多様性総合評価推進費



資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する)(単位:
百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A. (株)環境調査技術研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費		4			
計		4	計		0
B.(財)自然環境研究センター			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	検討委員会開催準備、資料収集等	12			
旅費	検討会委員旅費	3			
賃借料	検討会会場借料	1			
諸謝金	検討会委員謝金	1			
その他	アルバイト賃金、速記、通訳、印刷製本	4			
計		21	計		0
C.(財)自然環境研究センター			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費		0.96			
計		0.96	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A. (株)環境調査技術研究所

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)環境調査技術研究所	生物多様性白書作成等に係る基礎調査業務	4	2	0.51

B. (財)自然環境研究センター

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)自然環境研究センター	「生態系サービス検討委員会」を開催し、生物多様性総合評価を踏まえた検討実施。生物多様性保全上重要な地域の選定に向けた検討の実施。	21	1	0.67

C. (財)自然環境研究センター

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)自然環境研究センター	世界と日本の生物多様性総合評価発表記念シンポジウムにおける発表資料原稿の作成	0.96	少額随意契約	—